

大館の歴史散歩

近代化と
その遺産⑩

十二所・石井地織工場

地域経済の牽引車

藩政時代、南部藩と境を接する十二所町は、代官所「再来館」を中心とする小城下町として発達し、周辺地域の物資の集散地として栄えた。限られた地域の中ではあるが、特色ある近代産業として、町の発展に大きく貢献した地織業を挙げることができ

る。十二所・石井地織工場は、石井喜助が明治二十七年に創業したが、前身は安政年間創業の染色業である。工場創業当時は機械五台、職工八人で、年産七百反にすぎなかったが、明治三十五年ころから足踏み機械に改め、職工も次第に増えていった。第一次世界大戦による好況時



石井地織工場事務所と土蔵

には工場を移転拡張し、動力利用の機械を設備した。大正十二年のころは従業員が五十人ほどで、年間六万反も生産し、東北でもトップクラスの大工場となった。その製品は町の移出品として重要な位置を占め、工場は十二所町民の重要な働き場であった。また、染色業も好況時には職工が二十人ほどいて、生産量は年間五、六万反にも達したという。製品は、静岡県浜松から買い付けた糸で織られた木綿の反物で、十二所地織と呼ばれる高砂織であった。鹿角・北秋田地方を主な商圏とし、県内各地で販売され、モンペやハッピなどの仕事着、普段着の素材として使われた。

昭和二年ごろ、工場拡張建設の現場から温泉が湧出し、町内の人々が入浴に訪れたり、毎月五日の給料日には町内の商店がにぎわったものだという。

地織工場は長男喜久蔵が後を継ぎ、三男広治はタオル工場、四男七郎はジャケットとメリヤス工場を継いだ。これも喜助の発案で、十二所町長を務めた千

葉勝美とともに、十二所機械製糸の功労者として知られる。しかし、次第に洋服を着る人が増え、木綿の需要が減り始めた。そして、世界不況と戦争の勃発が十二所にも暗い影を落とすことになる。職工の出征、原材料の統制、金属回収令による機械の徴発などにより、昭和十九年、地織工場は閉鎖されることになった。

現存するのは、当時事務所として使われた建物と、土蔵のみであるが、近代化に向かって走り続け、地域の経済を支えてきた歴史の証人として、その姿をとどめている。

参考文献 十二所町郷土読本

市役所史跡探訪会

私の本棚

中央図書館新着図書

つね 経 清 記

江宮隆之著 新人物往来社

奥州藤原氏の祖、藤原経清。その生きざまと死に際の悲惨さを描いた歴史文学賞受賞作。経清の息子の清衡の生涯を浮き彫りにした「清衡伝」も収録。奥州藤原氏の基礎を築いた親子を活写。



☆一般書 ☆参勤交代道中記(忠田敏男) ☆魂の殺人(アリス・ミラー) ☆患者に言えないホントの話(柴田二郎) ☆昭和歳時記(吉村昭) ☆地を這う虫(高村薫) ☆ミラクル(辻仁成) ☆幻の旅(林望) ☆箱庭(内田康夫) ☆晩年の中川一政先生(佐々木惣助) ☆血痕(由良三郎) ☆山中静夫氏の尊厳死(南木佳士)ほか

☆児童書 ☆のっぽのマリア(シルビア・マドーニ) ☆ありがとうはく家族(B・バイアーズ) ☆恐竜公園 UFO 着陸事件(和田登) ☆パディントンのABCのほん(マイケル・ボンド)ほか

1月のテーマ関連図書コーナー 『いぬ』
親子読み聞かせ会
毎月第1金曜日 午後2時30分から
中央図書館の休館日
1月16日、27日、2月11日

クイズ 広報 おおだてがヒント

- ▽問題
- ① 大館市奨学資金貸与額、24万円から増額されて何万円に?
 - ② 大館能代空港の開港予定は何年何月?
 - ③ 市県民税申告相談、始まりは何月何日?
 - ④ 市営水門前住宅、第1種住宅の1戸当たりの床面積は約何平方メートル?
 - ⑤ 十二所石井地織工場、創業は明治何年?
- ▽応募方法
- はがきに住所、氏名、年齢、性別、答え(例①—②—)を書いて応募ください。
- ※応募総数98全問正解者86
- ▽締め切り
- 1月27日(木) 当日消印有効
- ▽応募先
- 〒017 大館市字中城20番地 広報おおだてクイズ係
- ※全問正解者の中から抽選で5人に、秋田犬のオリジナルレホンカードを贈ります
- ▽12月16日号の答え
- ① 30度 ② 2、000ト ③ かみやま ④ 3ダラ ⑤ 31年
- ▽12月16日号の当選者
- ・加賀谷淳さん(宇池内道上)
 - ・畠山真一さん(中道2丁目)
 - ・因幡正子さん(萩野台1区)
 - ・渡辺大典さん(南ヶ丘)
 - ・藤原真生さん(羽立)